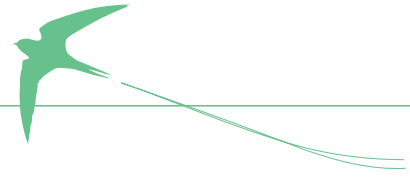


躍動感溢れる夏が訪れ、森の木々たちも緑を増しています。今年、東北各地で国際森林年を記念した催しを開催し、森林への理解や興味を持って貰おうと工夫に努めています。



国際森林年記念  
育樹祭を開催

下北森林管理署



去る6月9日(木)、むつ市の奥内第一国有林240い4林小班に於いて、むつ市と共同で国際森林年記念育樹祭を開催し、関係機関・関係団体・フォレストボランティア員・一般応募者・奥内小学校の生徒など59人が参加しました。

はじめに主催のむつ市長から「豊かな森林を育てることが豊かな海を育てることにつながります。今日は苦手な、長いモノに出会わないことを祈ります。」との挨拶があり、同じく主催の当署署長からは、「育樹作業は植樹と比べると地味なイメージですが、森林を守っていくには欠かせない大事な作業です。」との挨拶がありました。

昨年の育樹祭は下刈作業でしたが、今年はスギの枝打及び間伐作業ということで初めて体験する人が多く、枝打方法や林内での安全作業についての説明には皆熱心に耳を傾けていました。

作業が開始されると、それぞれが鋸を手に枝を次々に切り落としていき、下枝が多く暗かった林内が見える



各地からの  
便り

うちに明るくなっていきました。

その後間伐作業も行いましたが、木が倒れる瞬間は小学生の間から「すげー」「やったー」などの歓声があがり、育樹作業の面白さを体感している様子でした。

また作業後には、当署からは国際森林年について、県民局からはスギ県産材の利用促進について参加者に説明を行いました。

当日は晴天に恵まれましたが、その分気温も上がり、小学校の生徒の中には体調を崩す人もいました。ただ心配された怪我や、長いモノの出現もなく、無事に終えることができました。

たのは何よりでした。



枝打ちに挑戦

「あつぴ高原遊々の森」  
八幡平市と協定を更新  
岩手北部森林管理署



6月1日(水)、八幡平市と「あつぴ高原遊々の森」の協定を更新しました。

遊々の森は「中の牧場」を中心に約182haを、平成18年に協定締結した期間が満了となるため5年間の更新をしたものです。

八幡平市の山麓に広がる安比高原は、自然観察や、散策の場として多くの人々に利用されています。

協定調印式は、前日までの悪天候が止み、さわやかな晴天に恵まれた中、「あつぴ高原遊々の森」の現地において、八幡平市長、岩手北部森林管理署、自然保護巡視員、国有林モニター等、40名が参加し、「中の牧場」にあるブナの駅で、八幡平市長、岩手北部森林管理署長との間で協定書が取り交わされました。当日は、「遊々の森」で安代小学校5年生25名が森林教室を開催しており、市長、署長の挨拶の後、5年生全員で「この森と草原が自然の力と人間の知恵で、動物が暮らす豊かな森になることを願う」と誓いの言葉がたかだかに宣言されました。



みどりの東北

また、森林教室は年間の計画に基づく第1回目の開催で、森林に興味を持たせ、自然の美しさや不思議に「気づく」をテーマに開催、年間4回を計画しています。



協定調印式

「岩手・宮城内陸地震」の発生から丸3年目となる6月14日(火)、岩手南部森林管理署と一関市の共催で「岩手・宮城内陸地震3周年「市野々原復興記念植樹祭」被災地展望広場除幕式」並びに「祭時見学通路開通式」を開催しました。

この取組は、一関市市野々原地区での復旧工事が平成22年12月に完了したことに伴い、復旧跡地に周辺と同じ樹種(フナ・ミズナラ等9種類)を植栽し元の森林に蘇らせようというものです。

また、今年には国際森林年でもあり、森林の再生への参画を通じ、人と森林との関わりを考える機会になればと、地元小学校3校の児童や被災地域の方々、一般公募により参加した方々など総勢200名(余り)での植樹祭となりました。

式典に先立ち、先の東日本大震災により、亡くなられた方々のご冥福を祈り参加者全員で黙祷を行いました。

式では、当署長及び一関市長の挨拶に続き、多数の来賓を代表して一関市議会議長から挨拶を頂きました。

その後、大規模な地すべりと地すべりで閉塞した河道を緊急対策によって付け替えた磐井川を表現したモ

ニメントの除幕式を行いました。

植樹前に中里治山第二係長より地震発生から今日までの工事の施工状況をパネルを使用し説明を行い、特に当該箇所には地すべりによって大量に発生した倒木や土埋木(現地発生材)を有効活用するため全量をチップ化し、植生基材として現地の植生回復に活用しており、参加者も興味深く聞き入っていました。

植樹では、児童たちが「早く大きく育つて」と声をかけて植えており、被災地域の方々には「元の山に戻って」と願いを込めて植樹をされました。

当署では、今後とも治山事業の必要性や森林の役割を多くの方々に知っていただくよう取り組むこととしています。



児童による植樹の様子

「国際森林年」記念の植樹活動を開催

仙台森林管理署

当署管内の南端に位置する刈田郡七ヶ宿町の柳澤山国有林にて、「国際森林年」を記念した植樹活動を6月6日(月)に開催しました。七ヶ宿町は町の面積の約9割が森林に覆われており、下流の市町村の水源地としてとても重要な役割を持っている町です。そして町の約6割は国有林であり、地元の皆さんに国際森林年と国有林をPRできる良い機会となりました。

当日は、晴天で7月中旬並みの気温と天候に恵まれ、汗ばむ陽気の植樹活動となりました。参加者は、地元の湯原小学校全校児童21名と関小学校4年生9名、町長と役場関係者、教職員など、計50名で、署長挨拶と町長からの祝辞のあと、分収育林の皆伐箇所跡地0.2haにスギのコンテナ苗を600本植樹しました。

50人で600本の植樹ということで、予定時間内に全てを植えつけるのは困難かと思われましたが、コンテナ苗は普通の苗のように根が広がっていないため一鍬植えが可能で

国際森林年に因んだ「市野々原復興記念植樹祭」  
岩手南部森林管理署





みどりの東北



標柱の前で記念撮影

あり、小学生でも容易に植え付けることが出来るため時間内に全てのスギを植えることが出来ました。終了後、小学生の皆さんに「1人何本植えましたか？」の問いには、ほとんどの子が「10本以上！」と元気に答えていました。

午後は担当職員3名による森林教室を行いました。低学年、中学年、高学年の3グループに分かれ、森林・林業に関する話や、森林の中に置いてある人工物がいくつあるかという「カモフラージュ」というネイチャーゲームをして、森林への理解を深めてもらいました。

「権現森自然研究会」と遊々の森の新規協定締結

仙台森林管理署



5月18日(水)、仙台自然休養林の一つである権現森で以前から活動をされている、権現森自然研究会(会長 木村昭憲さん)と、遊々の森の協定を新規に締結しました。



協定締結後の様子

約3年間活動を行っていただきました。権現森自然研究会は平成19年8月に設立され、近隣にお住まいの中高年を中心としたメンバー22名で構成されています。主な活動としては、毎月の安全パトロール、遊歩道沿いの枯木などの除去や刈払い、年数回の市民を対象とした自然観察会などです。

昨年からは地元中学生の体験授業の受け入れをしており、森林の役割などの学習、案内板の作成・設置、安全パトロールなど、権現森自然研究会の活動を体験してもらいました。

この体験授業は、「遊々の森」の協定締結後も継続する予定で、今年も多くの中学生に権現森自然研究会の活動を通して、森林に興味をもってもらえたらと思います。

「仁別国民の森」で三者協定活動の実施

東北森林管理局



アサヒビル株式会社、仁別森林博物館ボランティア案内人会及び当局は協定を締結し、平成20年8月から仁別自然休養林(仁別国民の森)において、体験型森林環境教育などを通して、自然や森林の大切さを多くの人に知ってもらう取り組みを春

と秋の年2回行っています。

6月11日(土)、第6回の「三者協定活動」は晴天に恵まれ、参加者43名が2班に分かれ、樹木園の充実活動と太平山の清掃登山活動を行いました。樹木園の充実活動は、仁別森林博物館周辺の樹木園内で、樹木の標柱(秋田森林管理署作成)約80本の設置や、園内の除草を行い、来園者が気持ちよく園内観賞を行うことが出来る環境を整備することが出来ました。



標柱打ち込みの様子

太平山の清掃登山活動は、登山道沿いに落ちている鉛などの包み紙を拾いながら往復4時間程度かかり、日差しが強く体力を消耗しながらの清掃作業となりましたが、登山道周辺もきれいになり、心地よい汗を流しました。

最後に、国際森林年のテーマでもある「森を歩く」と秋に行う三者協定活動に向けて森林保全活動などを盛り上げて行くことを確認し、解散しました。